

【認知症対応型共同生活介護用】

1. 評価報告概要表

作成日 平成22年 3月29日

【評価実施概要】

| | |
|-------|--|
| 事業所番号 | 0570209015 |
| 法人名 | 有限会社ケアサービスおちあい |
| 事業所名 | グループホームおちあい |
| 所在地 | 秋田県能代市落合字上釜谷地187番地2号 (電話)0185-52-8212 |
| 評価機関名 | 社会福祉法人 秋田県社会福祉事業団 |
| 所在地 | 秋田市御所野下堤5丁目1番地の1 |
| 訪問調査日 | 平成 22年 3月 26日 |

【情報提供票より】(H22年 3月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

| | |
|-------|----------------------------|
| 開設年月日 | 昭和・平成 15年 11月 1日 |
| ユニット数 | 1ユニット 利用定員数計 9人 |
| 職員数 | 8人 常勤 8人, 非常勤 人, 常勤換算 7.1人 |

(2) 建物概要

| | |
|------|------------|
| 建物構造 | 木造 造り |
| | 1階建ての 1階部分 |

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

| | | | | |
|---------------------|------------|----------------|---------------|-------|
| 家賃(平均月額) | 19,500 円 | その他の経費(月額) | 高熱水費 10,000 円 | |
| 敷金 | 有(円) | 無 | | |
| 保証金の有無 (入居一時金含む) | 有(円) | 有りの場合 償却の有無 | 有 / 無 | |
| 食材料費 | 朝食 | 250 円 | 昼食 | 350 円 |
| | 夕食 | 400 円 | おやつ | 円 |
| | または1日当たり 円 | | | |

(4) 利用者の概要(2月28日現在)

| | | | | | |
|-------|--------|------|-----|----|-----|
| 利用者人数 | 9名 | 男性 | 3名 | 女性 | 6名 |
| 要介護1 | 3名 | 要介護2 | 3名 | | |
| 要介護3 | 1名 | 要介護4 | 1名 | | |
| 要介護5 | 1名 | 要支援2 | 名 | | |
| 年齢 | 平均 86歳 | 最低 | 72歳 | 最高 | 96歳 |

(5) 協力医療機関

| | |
|---------|-----------|
| 協力医療機関名 | 白坂内科胃腸科医院 |
|---------|-----------|

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは閑静な新興住宅地の中に位置し、近隣には商店も多いことから、日常的に散歩や買い物等の外出を行いやすい環境にある。また、ホームの広い畑で様々な野菜を育てており、利用者の役割や楽しみとなっているほか、ホームの食卓も賑わせている。また、管理者を中心に、支援業務全般に関わる改善に熱心に取り組んでいる。例えば「援助チェックシート」を作成して、利用者や家族の意見・苦情、日常場面で起きた利用者の行動や訴え等について詳細な記録と分析を行うなど、独自の取り組みが進められている。「利用者個々の人間性や生活史を理解し、尊重する」という理念を支援に活かそうという意欲が感じられるホームである。

【重点項目への取組状況】

| | |
|------|---|
| 重点項目 | 前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) |
| | 【運営推進会議について】2か月に1回の開催を継続している。【家族等の意見の反映について】重点項目 のとおり。【同業者との交流について】県・地区のグループホーム連絡協議会の相互研修等を通じて交流を行っている。 |
| 重点項目 | 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) |
| | 自己評価は、職員が2人1組になって作成し、最終的に管理者が取りまとめている。ホームとして、自己評価及び外部評価の意義を理解していることから、今後も評価の結果を業務の改善等に活用していくことが期待される。 |
| 重点項目 | 運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) |
| | 運営推進会議は2か月に1回開催されている。市の担当者や家族、地域住民等が参加し、ホームから支援や研修の状況等を伝えた上、意見交換を行っている。 |
| 重点項目 | 家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) |
| | 家族等からの意見や苦情等については、管理者が窓口となっている。ホーム独自に「援助チェックシート」を作成しており、その様式を用いて意見の内容や今後の対応を明確にしているほか、職員間でも情報を共有している。 |
| 重点項目 | 日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) |
| | 近隣の養護学校の行事に招待されたり、利用者の家族とのつながりで演奏ボランティアが来訪するなどの交流が続いている。また、ホームの斜め向かいにある看護学校の文化祭にも出かけている。 |

2. 評価報告書

| 外部評価 | 自己評価 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|-----------------------------|------|--|---|---------------------|---|
| 1.理念と共有 | | | | | |
| 1 | 1 | 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている | 開設時に「利用者個々の人間性や生活史を理解し、尊重する」という主旨の運営理念を、職員が合議の上作り上げている。理念は玄関先などに掲示されている。 | | |
| 2 | 2 | 理念の共有と日々の取り組み 運営者と管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる | 職員は上記の理念を念頭に置きながら、利用者の言動を否定せず、「お世話させていただいている」という思いを持って支援にあたっている。 | | 運営理念の他、管理者が感銘を受けた言葉などが事務所内などに掲示され、仕事にあたっての心構えなどが職員間で共有できるよう努めている。 |
| 2.地域との支えあい | | | | | |
| 3 | 5 | 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている | 近隣の養護学校の行事に招待されたり、利用者の家族とのつながりでフォルクローレの演奏ボランティアが来訪するなどの交流が続いている。また、ホームの斜め向かいにある看護学校の文化祭にも出かけている。 | | ホームは新興住宅地にあり、自治会等が立ち上がっていない事情もある。今後は、例えば看護学生との交流や災害訓練時の協力などをきっかけに、時間をかけながら地域とのつながりを深めていくことも期待される。 |
| 3.理念を実践するための制度の理解と活用 | | | | | |
| 4 | 7 | 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる | 自己評価は、職員が2人1組になって作成し、最終的に管理者が取りまとめている。ホームとして、自己評価及び外部評価の意義を理解していることから、今後も評価の結果を業務の改善等に活用していくことが期待される。 | | |

| 外部評価 | 自己評価 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|------------------------------|------|--|---|---------------------|--|
| 5 | 8 | <p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p> | <p>運営推進会議は2か月に1回開催されている。市の担当者や家族、地域住民等が参加し、ホームから支援や研修の状況等を伝え、意見交換を行っていることが確認できた。</p> | | |
| 6 | 9 | <p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p> | <p>市の担当者とは、質問事項等を主にメールでやり取りしており、日常的に情報交換を行う関係を築いている。</p> | | |
| <p>4.理念を実践するための体制</p> | | | | | |
| 7 | 14 | <p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p> | <p>家族の殆どが、毎月利用料の支払いを兼ねて面会に来ており、その際に利用者の状況を報告している。請求書を送付する際、写真や手紙を同封することもある。また、年に2回大判の「ホームたよりおちあい」を発行している。</p> | | |
| 8 | 15 | <p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p> | <p>家族等からの意見や苦情等については、管理者が窓口となっている。ホーム独自に「援助チェックシート」を作成しており、その様式を用いて意見の内容や今後の対応を明確にしているほか、職員間でも情報を共有している。</p> | | <p>「援助チェックシート」には、意見や苦情等のほか、日常的な支援の場面で起きた利用者の行動や訴えについても詳細な記録と分析が行われている。優れた取り組みとして評価したい。</p> |
| 9 | 18 | <p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p> | <p>新任職員が業務に入った場合は、慣れた職員が側について共に支援を行うなど、利用者や馴染みの関係が作りやすくなるよう配慮している。</p> | | <p>職員の離職や新規採用の情報を含め、より定期的にホームや利用者の状況等を家族へ伝えていく取り組みも期待される。</p> |

| 外部 評価 | 自己 評価 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|---------------------------------|----------|---|--|---------------------|--|
| 5.人材の育成と支援 | | | | | |
| 10 | 19 | <p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、運営者自身や管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p> | <p>職員は、県社協やグループホーム協議会主催の研修に参加する機会がある。また、職員会議の前にケアに関するDVDを観るなど、内部研修についても実施している。</p> | | <p>来年度の研修計画が立てられており、ホームとして研修体制を更に充実させていく意向がある。</p> |
| 11 | 20 | <p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、運営者自身や管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p> | <p>秋田県認知症グループホーム協議会、及び能代山本地区グループホーム協議会を通じ、他グループホームとの相互研修(交換研修)や人材育成に関する勉強会などが行われている。</p> | | |
| .安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 1.相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応 | | | | | |
| 12 | 26 | <p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう本人又は家族等と相談しながら工夫している</p> | <p>利用開始にあたり、計画作成担当者が中心となって本人や家族から事前に情報を聞き取り、要望等を尊重して支援できるよう努めている。家族が近隣に住んでいる場合はなるべくホームに来所してもらうようお願いしたり、本人の馴染みの食器等を持参してもらうなどの工夫をしている。</p> | | |
| 2.新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援 | | | | | |
| 13 | 27 | <p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p> | <p>職員は、利用者の言葉を否定することなく、本人の思いを受容しながら接するよう努めている。訪問時も、食事後や洗濯物たたみの際に、職員が利用者のペースに合わせて側について過ごしていることが確認できた。</p> | | |

| 外部 評価 | 自己 評価 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|--------------------------------------|----------|---|--|---------------------|---|
| .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 1.一人ひとりの把握 | | | | | |
| 14 | 33 | <p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p> | <p>利用開始時に「個人調査票」や「事前訪問調査票」を用いて利用者の生活歴等を確認した上、日常的な利用者の意向・要望については毎月の職員会議や申し送りノート等を通じて職員間で情報を共有している。</p> | | |
| 2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し | | | | | |
| 15 | 36 | <p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p> | <p>計画作成担当者が中心となって職員から必要な情報を集めたり、毎月の職員会議で話し合ったり、家族の面会時などに意向や希望を聞き取ったりした上で介護計画を作成している。また、「援助チェックシート」に記載された利用者個々に関する職員の「気づき」を介護計画に反映させるよう努めている。</p> | | <p>利用者本位の綿密な介護計画が作成されている。今後は、チームで介護計画を作成していることが明確にわかるよう、記録を更に整備しておくことも望まれる。</p> |
| 16 | 37 | <p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p> | <p>介護計画は6か月に1回、もしくは必要に応じて随時見直しを実施している。見直しについても、計画作成担当者が中心となって情報をとりまとめ、評価を行っている。</p> | | |
| 3.多機能性を活かした柔軟な支援 | | | | | |
| 17 | 39 | <p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p> | <p>利用者から希望があれば一時帰宅のために送迎を行ったり、利用者が入院中で家族の付き添いが困難な場合に洗濯ものを届けるなど、可能な範囲で多様なサービス提供に努めている。</p> | | |

| 外部評価 | 自己評価 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|-----------------------------------|------|---|--|---------------------|--|
| 4.本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働 | | | | | |
| 18 | 43 | かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 利用者及び家族の希望に応じ、協力医療機関やこれまでのかかりつけ医に受診している。協力医は2週間に1回往診しているほか、かかりつけ医への通院は職員が支援している。また、地域の薬剤師とは日常的に相談等ができる体制にある。 | | |
| 19 | 47 | 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している | 利用者との契約時に、ホームとして終末期に係る支援は行わないことを説明し了解を得ている。医療機関との連携を含め、重度化等の支援についてはホームができる範囲で対応している。 | | |
| .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 1.その人らしい暮らしの支援 | | | | | |
| (1)一人ひとりの尊重 | | | | | |
| 20 | 50 | プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない | 職員は利用者を尊重した言葉遣いや態度で、穏やかに接していることが訪問時に確認できた。また、浴室の入り口に管理者手作りのつい立てを置き、出入りの際に中の様子が見えないようにするなどの配慮も行っていった。 | | 居室の扉は、利用者の習慣等の理由から開いている状況も見られるが、外部からの訪問者があった場合のプライバシー確保にも引き続き配慮していくことが期待される。 |
| 21 | 52 | 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 昼食後も利用者と職員がゆっくり談笑していたり、利用者のペースに応じて居室やリビングに誘導している場面が確認できた。 | | |

| 外部 評価 | 自己 評価 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取り組みを期 待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|------------------------------|----------|---|---|-------------------------|--|
| (2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援 | | | | | |
| 22 | 54 | 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 利用者は食事の下ごしらえや後片付けなど、できる範囲で職員と共に行っている。利用者が持ち込んだ食器を用いたり、色とりどりのランチョンマットを敷くなど、食事が楽しめるような工夫を行っている。 | | |
| 23 | 57 | 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて、入浴を楽しめるように支援している | 入浴は週2回のペースで行っている。入浴を好まない利用者については無理強いすることなく、声をかける職員を変えたり、日にちをずらすなどの対応を行っている。 | | 管理者より、今後は入浴できる時間を延ばすなど、より利用者のニーズに即した入浴支援を検討していく予定であるとの話があった。 |
| (3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援 | | | | | |
| 24 | 59 | 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている | だまこ餅やケーキ作り、洗濯ものたたみやホーム内の畑での水まきや草取りなど、利用者ができる範囲で楽しみながら行える役割を設定している。 | | |
| 25 | 61 | 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している | ホームは閑静な新興住宅地の中に位置しており、道路も整備されているため散歩等の外出が行いやすい。また、近隣の商店に買い物に出かけたり、ドライブを楽しんだりするなど、日常的な外出支援が行われている。 | | |
| (4)安心と安全を支える支援 | | | | | |
| 26 | 66 | 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに努めている | 基本的に日中は鍵をかけていない。利用者の安全確保のため、止むを得ない場合のみ一時的に施錠することはある。利用者が一人で出かけた場合の対応マニュアルが整備されており、安全を確保しながら利用者が納得するまで付き添う支援を徹底している。 | | |

| 外部評価 | 自己評価 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|---------------------------|------|--|--|---------------------|--|
| 27 | 71 | <p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p> | <p>消防署の指導の下で災害訓練を実施している。今年度は近隣の住民 2 名に参加してもらい、消火器の操作訓練を行った。</p> | | <p>来年度の災害訓練計画も策定しており、ホームとして真摯に取り組む姿勢が伺える。今後は夜間想定 of 訓練なども設定し、利用者や職員の安心・安全につながるよう、定期的に訓練を実施していくことが望まれる。</p> |
| (5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援 | | | | | |
| 28 | 77 | <p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p> | <p>食事の摂取状況等は毎日チェック表に記録している。体温、血圧等の記録と併せ、より利用者の状況を把握しやすい表の様式について改良を重ねている。栄養士等から献立のチェックを受ける機会を確保していくことも今後期待される。</p> | | |
| 2.その人らしい暮らしを支える生活環境づくり | | | | | |
| (1)居心地のよい環境づくり | | | | | |
| 29 | 81 | <p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や臭いや光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p> | <p>共用の空間は木材を中心とした暖かみのある雰囲気であり、利用者はリビングのソファなどでゆったりとくつろいでいる。不快な音や臭い等は全く感じられない。訪問時は冬季だったため、加湿器を各所に置いて室内の乾燥を防いでいた。</p> | | |
| 30 | 83 | <p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p> | <p>居室には木製ベッドとクローゼットが据え付けてあり、その他の家具等は利用者の馴染みのものを自由に持ち込むことができる。家族の写真や装飾等、その人らしい居室づくりが行われていた。</p> | | |

は、重点項目。